

令和3年度 福井市麻生津小学校 スクールプラン


●福井市学校教育目標
郷土福井に誇りを持ち、たくましく
生きる子どもの育成

●学校教育方針
地域に根ざす「学びの一貫性」

●研究主題
確かな学力、生き生き麻生津っ子を
めざして
子供の「学ぼうとする姿」に
着目した授業改善

〈学校教育目標〉 自ら学び、未来を拓く児童の育成

〈めざす学校像〉 自らの力を発揮し、生きる力の「もと」を育む小学校教育の実現



- 知識・技能のもと： 感じることと気付くこと
- 思考力・判断力・表現力のもと：見渡し見通し工夫しやり直す・思いを自分の言葉や表現で出すこと
- 学びに向かう力： 好奇心、粘り強さ、仲間による支えを自分なりに取り込むこと

〈めざす麻生津っ子〉 「～しようとする」という志向の重視と 資質・能力の育成

知： 進んで学び、考える力・表現する力を高めようとする子 (学ぶ意欲、思考力・表現力)

徳： 自分の力を出し、認め合い、協力して行動しようとする子 (他者との協働)

体： 心と体を大切に、粘り強くやってみようとする子 (心身の健康としなやかさ)

●家庭・地域の願い

- ・たくましく努力できる子
- ・思いやりをもって助け合う子
- ・元気なあいさつができる子
- ・地域とのつながりの強化
- ・園小中接続の推進
- ・あそぶつづきの伝統の継承 等

●足羽中学校区教育
子供の表現と貢献に着目して

- ・自分の思いや考えを豊かに表現する姿
- ・地域の良さを見つけ、貢献する姿

全ての教職員による カリキュラム・マネジメント

子供の姿を核とした 教職員の学び合い

	確かな学力の定着	豊かな心の育成	健やかな心身の育成	家庭・地域との連携
重点目標	◎主体的に、協働して問題解決できる力を培う ・学ぶ意欲を高める授業づくり ・子供の姿に着目した授業づくり	◎多様な文化や価値観を受容・共感できる力を培う ・多様な人との関わりと道徳教育・人権尊重推進 ・個と集団を育てる学級経営	◎困難を乗り越えようとするレジリエンスを育てる ・自己有用感、自尊感情の醸成 ・健康で安全な生活習慣の定着	◎様々な人と協調・協働できる力を培う ・郷土や異文化に対する理解の促進 ・園小中連携・接続の推進
具体的な取組	・活動を通して資質・能力のもとが生じるように、授業や活動の振り返りを充実する。 前の学習・次の学習とつながる 友達の考えとつながる 自分の成長・生活とのつながりを自覚する ・子供が問題を発見し話し合うなど、他者との関わりを強く意識し学びの質を高める。 ・ICT機器の基本操作を習得させ、情報の収集・整理・発信等の学習機会を増やす。 ・自分で計画を立てて学習するなど、家庭学習の課題の与え方を工夫する。 ・複数の支援人材活用により、個に応じた学習指導の充実を図る。 ・公立図書館や支援員と連携し、読書に親しむ多様な機会を設定する。	・きめ細かで温かな学習環境づくり、一人一人が自分の力を出すことができる学級経営を行う。 ・二者での思いやりと責任感(両者にとってよいことを探る)、三者または四者程度の小集団で、人間関係の調整と生かし方を学べるよう、活動の工夫をする。 ・集団でのルール作り・ルールの改変などの経験を増やし、守り、自己調整に活かす。 ・教員主導の説明を減らすよう意識し、児童に投げかけ話し合う場を多様に作る。 ・異年齢での活動等を通して、相手を思いやる温かい人間関係づくりを推進し、いじめのない学級、学校づくりを進める。 ・社会とよりよい関係を築く情報モラル教育を推進する。	・子供の成長の簡単な記録(写真・メモ)を習慣化し、日常の情報交換や学年会、研究会の柱とする。 ・子供の多様な活躍する場を意図的に設定し、自己有用感、自尊感情を醸成する。 ・「心のお天気しらべ」を活用し児童の心の健康状態を捉え、教育相談の充実を図る。 ・運動習慣の定着による体力向上、感染防止、健康・安全意識の向上など、安心・安全の意識強化を図る。 ・規則正しい生活習慣の確立を、家庭および校区内の園と連携して推進する。 ・地域の実情に応じた様々な自然災害等への避難訓練、体験活動を取り入れた危険予測学習を取り入れる。	・地域の自然や人材を活かした体験学習の推進策と、感染防止への配慮を両立できるように、関係機関や様々な地域人材と改善を図る。 ・緊急メールシステム、HP等の有効な活用を検討し、学校から家庭や地域への働きかけを丁寧に行う。特に、十分な時間を取れないことを考慮し継続可能な方法を探る。 ・オンライン活用、管理職による情報交換など、連携協働の推進により校種を超えた教員の共同研究を進め、接続を図る。また、校種間の連携による引継ぎの確実な実施を行う。 ・スクールカウンセラー、関係機関との連携などで、様々な状況への支援体制をつくる。
数値	・みんなで何かをするのは楽しい児童90%以上 ・授業改善を実践した教師90%以上	・学校が楽しい児童90%以上 ・いじめ解消100%	・感染予防をしている児童100% ・起床や朝食習慣が適切な児童90%以上	・地域に興味関心がある児童90%以上 ・メール等活用による発信月2回以上

●業務改善のための取組

- ・行事等のねらいの構造化による精選
- ・留守番電話活用
- ・ノー残業デー徹底
- ・放課後活動見直し
- ・デジタル化推進
- ・ペーパーレス会議
- ・会議終了時刻の徹底

●学び合う教職員集団のための取組

- ・校時見直しによる教職員の対話確保
- ・相互の授業参観の工夫(チケット活用・動画)
- ・経験値の異なる教職員同士の事例共有(終礼時ホットライン)
- ・オンライン活用

